

## 「2010全国通訳案内士地域連携研修in花巻」

### 【事業目的】

東北地域においても今後増大するであろう外国人観光客に地域の素晴らしい資源を広く紹介し、好印象を与えることで新たな観光客の掘り起こしやリピーターを増大する。

通訳案内士は、来日する外国人旅行客の旅行プラン作成から現地案内までの役割を担う国家試験の合格者である。近年、国としてインバウンド増大を目指す中であって、通訳案内士は、外国人の我が国への印象を左右しかねない重要な役割を担っている。

この為、全国の通訳案内士の研修を東北地域で行い、多くの通訳案内士に東北地域の観光資源を知っていただくとともに、先進地である首都圏、関西圏等の通訳案内士から具体的な手法や課題解決方法を学び、その成果を地域の観光に関連する業者との懇談等を通じて解決を目指し、地域の観光産業に新しいセンスを導入し、活性化を図る。

### 【事業実施状況、成果】

平成22年11月21日(日)～22日(月)「2010全国通訳案内士地域連携研修in花巻」参加者26名

●「外からの目で地域の観光資源」の課題が明らかになった。また、その解決のための手法等を先進地事例から学ぶことができた。

⇒花巻については、国際的にも著名なはずの新渡戸稲造が当市に深く関係していることを知らない通訳案内士(岩手県外出身者)も多かった。折角、新渡戸稲造記念館が市内にあるにも関わらず、観光客の足も向かないのではないかと思われた。観光パンフレットなどによる効果的な宣伝がより一層望まれる。

●地域の観光関連業者との連携により、新製品・新観光ルート等のイノベーションが生まれた。

⇒花巻市大迫地区にある「エーデルワイン工場」を見学したが、ワイン製造工程を理解できたほか、実際に工場で生産されたワインの数々をショップで試飲することができた。同社のワイン販路は岩手県内に限られているが、より多くの観光客を工場見学に誘致することにより、知名度も上がり、地場産業振興にもつながるのではないかと思われた。

●通訳案内士同士の情報交換や連携による誘致活動が活性化された。

⇒今回の参加者は北が北海道、南は愛知県と多岐にわたった。おしなべて東北地域は有力な観光資源があるにもかかわらず、アピールの弱さや消極性が言われている。今回の研修を機に東北地方の外から参加した通訳案内士にはあらためて東北の持つ資質が見直され、誘客に結びつくのではないだろうか。

●ホスピタリティの向上による魅力ある観光産業が創出された。

⇒宿泊先の温泉、買い物の店先、食事場所等、全てにおいて接客の良さが目に付いた。折しも、7月～9月の3ヶ月間「いわて・平泉観光キャンペーン」が展開されていたこともあって、観光立県を目指す岩手県の意気込みが感じられた。



### 【今後予想される事業効果】

●花巻・遠野両地域において今後、外国人観光客が増加する可能性が高まった。

⇒全国から集まった通訳案内士は来日する外国人観光客を国内各地に案内するプラン作りや実施に大きな役割を果たしている。今回の地域に密着した研修により、花巻・遠野の観光地としての価値が認識され、訪問地として選ばれる結果、訪問客数が増加する可能性が大いにある。

●今回の開催を機に、来年度、東北地域の他県で開催する機運が高まった。

⇒研修が成功を収めた結果、これを一回限りのものとせず、引き続き毎年、東北地域の各県で持ち回りで開催してはどうかという要望が出された。具体的には平成23年11月に宮城県内において、第2回目の研修を企画することで準備委員会が結成された。